

キリスト教委員会のHP(<http://rakuno-ce.org>)にアクセスして事前に聖書や讃美歌の確認をしましょう。

フィリポの答えは、山の上で大量のパン（200デナリオン＝150～200万円、1人当たり300～400円×5000人分）を買うことなどできないというものです。しかし、ここでイエスが意図しているのは「五千人の供食」のしるし（6章2節参照）であり、ヨハネ福音書の特徴である「見ないで信じる信仰」をフィリポに期待しているのです。現代人からすると、フィリポの反応が常識的であり、イエスの期待が非常識だと言えますが、現代世界でこの物語を再読すると、ここには「現実と理想の狭間」で揺れ動く人間の姿が映し出されていると言えます。つまり、イエスの期待は理想を描いており、フィリポの反応は現実を映し出しているということです。憲法9条の平和主義を例に取れば、平和主義の理念は確かに崇高かもしれないと言いつつも、それはやはり理想論でしかなく、武力や核が物言う現実世界で平和主義をお題目のように唱えても、軍拡が進む国際社会を生き抜けないという現実論が取って返されます。そして、同様のことは三愛主義の理念にも当てはまります。ここでイエスはフィリポに理想を追い求めることを期待しているのです。現実には押し切られてしまっただけで、理想を現実のものにすることはおろか、夢を持つことすらできなくなってしまうからです。現実が厳しいからこそ、みなさんには諦めずに理想を追い求めて欲しいのです。平和主義や三愛主義などの崇高な理念から発する理想こそが、分断や対立という現実を超えて、共存や共生という理想を現実のものにするからです。

【前学期の大学礼拝の感謝】

本日は2025年度前学期の最終礼拝です。前学期の大学礼拝にご出席くださった学生、教職員の方々に礼拝申し上げます（皆勤賞の方もいました）。讃美指導の相原先生、奏楽の佐藤先生、聖歌隊で素敵な歌声を響かせてくださったみなさん（後学期はクリスマスキャロルも歌いますので、より積極的な参加をお待ちしています）、奨励をご担当くださった学生、教職員、講師、韓国CCCとコーディネートの労をお取りくださった諸教会のみなさん、礼拝の運営にご尽力くださったキリスト教委員会の諸先生と事務局のみなさん、学園宗教主事の朴先生と理事長の高島先生のお支えに心より感謝申し上げます。後学期も引き続き大学礼拝を覚えてご出席ください。

【次回の大学礼拝（後学期始業礼拝）】2025年9月23日（火）10時40分

聖書：ヨハネによる福音書 6章 8-9 節

奨励：「思いを汲む——小さな思いから始まる」小林昭博（宗教主任）

【前回の大学礼拝】2025年7月22日（火）

学生：59名 教職員ほか：7名 合計：66名

【大学礼拝週報】2025年度 第15号（前学期第15号）

2025年7月29日（火）午前10時40分

酪農学園大学 黒澤記念講堂

《礼拝順序》

司 式 小林昭博（宗教主任）
奏 楽 佐藤理恵（野幌教会会員）
讃美指導 相原晴伴（循環農学類教授）

前 奏	強き王なる主をほめまつれ（リンク作曲）
讃 美 歌	酪農讃歌（黒土よ）
聖 書	ヨハネによる福音書 6章 5-7 節
さん び	酪農学園大学聖歌隊
奨 励	「現実と理想の狭間——理念から理想へ」
祈 り	小林昭博（宗教主任）
讃 美 歌	讃美歌第二篇 167 番（われをも救いし／Amazing Grace）
報 告	
後 奏	すべてのものよ、神に感謝せよ（バイエル作曲）

【本日の聖書】ヨハネによる福音書 6章 5-7 節

5 イエスは目を上げ、大勢の群衆が御自分の方へ来るのを見て、フィリポに、「この人たちに食べさせるには、どこでパンを買えばよいだろうか」と言われたが、6 こう言ったのはフィリポを試みるためであって、御自分では何をしようとしているか知っておられたのである。7 フィリポは、「めいめいが少しずつ食べるためにも、二百デナリオン分のパンでは足りないでしょう」と答えた。

【奨励】「現実と理想の狭間——理念から理想へ」

本日の聖書は有名な「五千人の供食」の物語の導入部です。5節でイエスがフィリポに問いを投げかけていますが、6節からも分かるように、この問いはフィリポがイエスの真意を理解しているかどうかを確認するためのものです。しかし、7節のフィリポの答えからは、イエスの真意が理解されていない様子が伝わってきます。物語は休息を取るイエスと弟子たちのもとに群衆が押し寄せて来ることから開始します。休む間もなく使命に生きるイエスは群衆が空腹であることに気を留めます。イエスの問いに対する